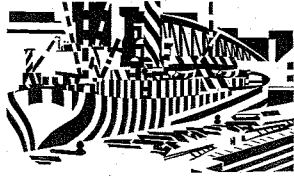


展示室1 モノトーンの世界 —イギリス版画の魅力



エドワード・ウォズワース
乾ドック内の迷彩船

郡山市立美術館は、イギリス版画の一大コレクションを所蔵しています。その極めて質の高い作品の数々はイギリス版画史のほとんどを網羅しています。

ビューイックが魅せた木口木版画の技、ターナーの細密描写や雄大な自然のパノラマ、神秘的で超現実的なブレイクの世界、ノリッジ派による風景画の数々、ホイッスラーが描く庶民の生活、ピアズリーの独創的な挿絵、時代の息吹を感じさせる今世紀初頭の試みなど—今回は所蔵作品の中から、イギリス版画を代表する作品の数々をご覧ください。モノトーンが奏でる世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホーガース	ビール街; ジン小路	1750~1	エッチング、エングレーヴィング
ウィリアム・ホーガース	ビール街; ジン小路	1750~1	エッチング、エングレーヴィング
トマス・ビューイック	野性の牡牛	1789	木口木版
ジェームズ・バリー	エッチング集より	1791~5	エッチング/ポートフォリオ
ラファエル・ラマー・ウェスト	木に隠れる山賊	1785頃	エッチング
トマス・ガーティン	パリの全景		エッチング、アクアチント
トマス・ガーティン	テュイルリーの眺め		エッチング、アクアチント
ポール・サンドビー	ラン・エガースト修道院またはクルーゼス溪谷とダイナス・ブラン城	1776	アクアチント、エッチング
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	海と空の習作	1825頃	メゾチント
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船(ドーバー海峡)	1830	メゾチント
ジョン・リネル	フローラ		エッチング、メゾチント
ウィリアム・ブレイク	ヨブ記の挿絵より	1825	ライン・エングレーヴィング/ポートフォリオ
ジョン・マーティン	ノアの大洪水	1828	メゾチント
サミュエル・パーマー	牧夫の小屋(日没)	1850	エッチング
サミュエル・パーマー	ひばり	1850	エッチング
サミュエル・パーマー	眠る羊飼ひ: 早朝	1857	エッチング
ジェームズ・ウォード	アドニス	1923~4	リトグラフ
ジェームズ・ウォード	ウォルトン	1823	リトグラフ
ジョン・クローム	道の風景、トロウス・ホール(ノリッジ付近)	1813	エッチング
ジョン・クローム	ヒンガム付近のディーファム(にて)	1813	エッチング
ジョン・セル・コットマン	タンカーヴィル城	1821	エッチング
ジョン・セル・コットマン	ファレーズ城、北側の眺め	1821	エッチング
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	早朝	1878	リトチント
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	寝床での読書	1858	エッチング
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	バルコニー、アムステルダム	1859	エッチング
ジョン・ベネル	ベッセマーへ向かって	1908	エッチング
オーブリー・ピアズリー	アリババ	1897	ラインブロック
オーブリー・ピアズリー	湯上りのメッサリーナ	1897	ラインブロック
オーブリー・ピアズリー	『イエロー・ブック』第4巻表紙デザイン	1895	ラインブロック
オーブリー・ピアズリー	フローレンス・ファー著『踊るファウヌ』表紙デザイン	1897	ラインブロック
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	航空機製作の六場面より		リトグラフ
デイヴィッド・ジョーンズ	エヴリマン	1928	木口木版
エリック・ギル	『四福音書』タイトルページ		木口木版
エリック・ギル	エヴァ	1926	木口木版
エドワード・ウォズワース	創造	1917	木版
エドワード・ウォズワース	乾ドック内の迷彩船	1918	木版
エドワード・ウォズワース	内部		木版

展示室2 南を描く

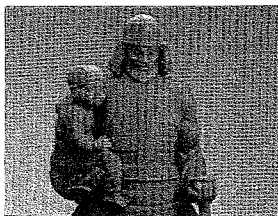


坂本繁二郎 (画)
『日本風景版画 第六集 筑紫之部』表紙

あふれる陽光に照らされた明るい風景、色鮮やかな花や実をつけた草木、開放的な風俗など、南への旅は現代の私たちにとっても心躍る体験です。画家にとっては、物珍しい風物もさることながら、陰影のコントラストが強い風景やまばゆいほどの色彩を目にした新鮮な感動が、創作意欲をかきたてるようです。いまでは橋やトンネルで本州とつながった九州や四国へも船で渡るしかなかったころ、旅と写生の喜びをとともに謳歌するように、画家たちが南を描いた作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
古賀春江	蝸牛のいる田舎	1928(昭和3)	油彩・キャンバス	
森田恒友 (画)	『日本風景版画 第五集 天草之部』	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ	
坂本繁二郎 (画)	『日本風景版画 第六集 筑紫之部』	1918(大正7)	木版・紙/ポートフォリオ	
小杉未醒 (画)	『日本風景版画 第七集 琉球之部』	1918(大正7)	木版・紙/ポートフォリオ	
中川八郎	アモイ丸甲板 「琉球」(1912(明治45) 吉田博、中川八郎、石川寅治)より		鉛筆、水彩・紙	
石川寅治	琉球の市場		木版・紙	
小杉未醒	八月の海 「瀬戸内写生旅行」(1911(明治44)頃 吉田博、中川八郎ほか)より		鉛筆、水彩・紙	
吉田 博	せと奈いかい高浜港	1928(昭和3)	木版・紙	
吉田 博	神の島	1930(昭和5)	木版・紙	
南 薫造	瀬戸内海		水彩・紙	
南 薫造	瀬戸内海風景	1948(昭和23)頃	油彩・キャンバス	
吉田ふじを	フロリダ	1906(明治39)	水彩・紙	
矢崎千代二	リオデジャネイロ風景		パステル・紙	
南 薫造	印度アグラの聖地	1916(大正5)	油彩・キャンバス	
真野紀太郎	ウェリントン植物園	1924(大正13)	水彩・紙	
北川民次	踊る人たち	1929(昭和4)	油彩・キャンバス	
北川民次	ざくろをもつ女	1954(昭和29)	リトグラフ・紙	
北川民次	アザミの花	1962(昭和37)	リトグラフ・紙	
秋山泰計	Yaoyorozoo・八百萬	1985(昭和60)	木版・紙	

展示室3 郡山の美術家たち



三木宗策
「威容包慈 (坂上田村麻呂像)」部分

郡山出身や郡山を拠点に活躍する(した)美術家たちを特集しています。

日本画は農村風景や日常風景を得意とした安藤重春と、都市とその正反対の山岳や原野の風景が特徴的な黒沢吉蔵。洋画は、穏健な写実表現の青津清喜、水田荘介に、抽象やシュールな表現の土橋醇、鎌田正蔵、佐藤昭一、芳賀忠行。版画は岩谷徹と安部直人のともにメゾチントを駆使した作品。彫刻はブロンズの三坂耿一郎に木彫の三木宗策とその一門の本田晶彦と佐藤静司。工芸は和風でかつモダンな感覚の漆芸家・折笠光助(兆春)、そして“ガラスの神様”佐藤潤四郎。ふるさとの「美の先達」たちの、個性あふれる表現をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
安藤重春	みちのく(蓮田の道)	1966(昭和41)	紙本着色	
黒沢吉蔵	北の山湖	1966(昭和41)	紙本着色	黒沢吉蔵氏寄贈
青津清喜	枯れた花の静物	1951(昭和26)	油彩・キャンバス	
水田荘介	横たわる裸婦	1953(昭和28)	油彩・キャンバス	
土橋 醇	タルヌ峡谷のコンポジション		油彩・キャンバス	
鎌田正蔵	異邦人	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	
佐藤昭一	夜の灯A	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	
芳賀忠行	虚構の風景一城	1974(昭和49)	油彩・キャンバス	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
岩谷 徹	宴のあと(大)	1980(昭和55)	メゾチント・紙	
岩谷 徹	秋の山	1984(昭和59)	メゾチント・紙	
安部直人	まなざし	1990(平成2)	エッチング、メゾチント・紙	
安部直人	冬支度	1994(平成6)	エッチング、メゾチント・紙	
三坂耿一郎	女童	1974(昭和49)	ブロンズ	
三木宗策	威容包慈(坂上田村麻呂像)		木	
本田晶彦	トルソ	1967(昭和42)	木	本田悦久氏寄贈
佐藤静司	閑	1986(昭和61)	木	佐藤静司氏寄贈
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器(控)No.1	1980(昭和55)	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー(控)No.1	1984(昭和59)	宙吹き・プランツ、雲母封入	
折笠光助(兆春)	黄雲	1988(昭和63)	乾漆	折笠兆春氏寄贈

展示室4① 楽しい本の世界



川西 英『サーカス』

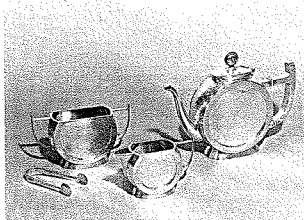
郡山市立美術館では、コレクションの一環として「本(版)の美術」を集めています。

現代は印刷技術の発達により、様々な本が廉価で手に入りますが、ここに展示するイギリスや日本の本は装丁、文字、挿絵など見どころいっぱいの芸術品です。

革に金文字の表紙といった豪華な洋書の装丁、また和紙を用いた軽くて実用的な和書の装丁など、国によって装丁の文化は異なりますが、装丁を見てその本を手にしたくなる事もあるほど重要なものです。また、木口木版や銅版などの技法の発達によって、本の挿絵の世界はより幅広い表現が可能となり、また版の技法もこうした出版文化によって磨かれていったと言えるでしょう。これらが本の物語や詩、もしくは学術的な内容などと調和して、多くの人々にとっての知識や感性の泉となってきました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ビューイック(画、刻)	『ゴールドスミス、パーネル詩集』	1795刊	木口木版・紙/本
トマス・ビューイック(画、刻)	『博物図集』	1809刊	木口木版・紙/本
ローレンス・ハウスマン(画)	『ゴブリン・マーケット』(C. ロセッティ著)	1859刊	ラインブロック・紙/本
サミュエル・パーマー他(画)	『人気なモダン・バラッド集』	1860刊	銅版・紙/本
A. B. ホートン(画)、ダルジール兄弟(刻)	『懐かしき我が家』	1865刊	木口木版・紙/本
G. J. ピンウィル(画)、ダルジール兄弟(刻)	『ダルジール版挿絵:ゴールドスミス作品集』	1875刊	木口木版・紙/本
J. A. M. ホイッスラー他(画)	『歴史上・伝説上に関するバラッドとソング』	1876刊	銅版・紙/本
アーサー・ジョセフ・ジャスキン	『童謡集』	1895刊	木口木版・紙/本
ケルムスコット・プレス版、サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ(画)	『世界の果ての泉』(W. モリス著)	1896刊	木口木版・紙/本
ウィリアム・ブラウン・マクドゥーガル	『イザベラ、バジルの壺』	1898刊	木口木版・紙/本
エラニー・プレス版、L. ピサロ(画)	『眠れる美女と赤ずきん』	1899刊	木口木版・紙/本
エリック・ギル	『コモン・キャロル・ブック〜クリスマスと復活祭の賛美歌集』	1926刊	木口木版・紙/本
エリック・ウィリアム・ラヴィリアス	『12か月』	1927刊	木口木版・紙/本
デイヴィッド・ジョーンズ(画・刻)	『老水夫のうた』	1929刊	ラインエングレーヴィング・紙/本
ロバート・ギビングス	『生命の栄光』(ルーウェラン・ポイス著)	1934刊	木口木版・紙/本
	『生命の栄光』版木		
	『生命の栄光』ブルー版		
蒲原有明(著) 青木繁(画)	『春鳥集』	1905刊	木口木版・紙/本
川西 英	『カルメン』	1934刊	木版・紙/本
川西 英	『サーカス』	1934刊	木版・紙/本
前川千帆	『車窓版画十連聚其四 新野外小品』より「高原」「牧場」	1942刊	木版・紙/本
『版芸術』創刊号より	恩地孝四郎「叙情」	1932刊	木版・紙/本
『版芸術』第4号より	前川千帆「小品」	1932年刊	木版・紙/本
『HANGA』第2集より	「草大王」「春近く」「瓶」「雪山」「打出の近郊」	1924刊	木版・紙/本
『一木会豆版画帖 博物譜』より	加藤太郎「実」	1950刊	木版・紙/本

展示室4② クリストファー・ドレッサーと日本



銀製ティーセット

クリストファー・ドレッサー（1834 - 1904）はスコットランドに生まれ、19世紀後半に英国のモダン・デザインの先駆者として活躍しました。1876（明治9）年、ドレッサーはロンドンのサウス・ケンジントン博物館が日本に寄贈した美術工芸品を携えて来日します。そして、4ヶ月にわたる滞在期間中に日本各地の美術工芸品の産地を訪問し、陶磁器や金属器などを研究しました。帰国後のドレッサーのデザインには、この時の経験から得た日本の美術工芸品の影響が色濃くみられます。ドレッサーは、それらを自らのデザインに消化させ、ヨーロッパの伝統や従来の概念にとらわれない、斬新で独創的な世界を生み出しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	銀製ティーセット	1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット	19世紀後半	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	染付鳥文壺	19世紀後半	磁気
クリストファー・ドレッサー	染付波濤文把手付鉢	19世紀後半	磁気
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差	19世紀後半	磁気
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892～95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892～95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	黄釉竹節型小皿	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉龍波濤文水差	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉把手付花瓶	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉人物文扁壺	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	うに型容器	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879～82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（アーチ型）		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・ケトル	1881	金属、電気メッキ

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
●1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	量子雲ⅩⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域ⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
アリストイード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
山本正道	帽子を被る男の肖像	1970～74(昭和45～49)	ブロンズ	
舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩	
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。